

# 「押し紙」を考える全国集会

「押し紙」（残紙）とは、新聞社がその販売店に送付しながら、販売店から戸別の読者に配られることのない新聞であり、ほとんどがゴミとして捨てられています。

「押し紙」問題は、厳密に言えば戦前からあり、戦後の高度経済成長の時代から急激に増えてきました。現在では、搬入される新聞の50%が「押し紙」というケースも報告されています。「押し紙」の負担が原因と思われる販売店主の自殺も起きています。資源の無駄づかい、環境破壊の原因でもあります。このように「押し紙」は水面下の大问题となってきましたが、タブーの壁に阻まれ、その実態はベールに包まれてきました。

全国集会では、「押し紙」の実態を具体的な資料と映像で明らかにします。



## 【発言者】

- ・黒薮哲哉（フリーランスライター）
- ・寺崎昭博（佐賀新聞「押し紙」裁判の原告）
- ・小坪慎也（行橋市議）
- ・その他

**日時：**11月1日（木）、17：00～18：45分

**場所：**衆議院第2議員会館 地下1F 第一会議室  
東京都千代田区永田町 2-1-2

**最寄り駅：**国会議事堂前[3番出口]（5分）  
2. 永田町[1番出口]（5分） 3. 溜池山王[8番出口]（8分）

※当日は、16：30分から、衆議院第2議員会館の玄関脇ロビーで入館証を配布いたします。

**【主催】** NO！残紙キャンペーン委員会（TEL048-464-1413、黒薮）